



年 組 名前

# 道新でワークシート

「土の中から手作業で掘り出されたナガイモの  
とちかち太郎」(村本典之撮影)



【帯広】十勝管内の9農協が生産する「十勝川西長いも」の秋掘りが、帯広市などで始まった。今年は全量が同市川西農協などが開発した新品種「とちかち太郎」に切り替わり、甘みと粘り気を蓄えた大きなナガイモが次々と掘り出された。

とちかち太郎は、従来品種より直径が最大で1㍍ほど太く、昨年は9農協の作付面積の半分で生産。今年は267戸・計551㍍の全てで作付けし、収量は2019年産(19年11月～20年10月)の全体の収量より1200㍍多い2万3600㍍を見込んでいる。

1.7㍍で栽培する帯広市の八代和樹さん(36)方では1日、家族とアルバイトの計8人が早朝から作業を開始。重機で掘った深さ1㍍ほどの溝に入り、長さ約70㍍に育ったナガイモを手作業で掘り出した。八代さんは「春の干ばつや秋の長雨の影響も少なく、大きく育った。品質も良好で、甘みや粘り気を堪能してほしい」と話した。

通年で安定供給するため、全体の6割を今月下旬まで収穫し、残りは来春掘り出す。

(鈴木理詞)

川西長いも  
甘みも粘りも  
全て新品種に  
十勝で秋掘開始

2020年10月24日 朝刊地方(旭川・上川版) 14ページ(記事は再編集しています)

- ①「十勝川西長いも」の品種改良により新たな品種が開発されましたが、その名前は何ですか。
- ②新しい品種は、従来品種に比べてどんな違いがありますか。
- ③通年で安定供給するために、どんな工夫をしていますか。